

委員会視察

10月26日及び27日、都市環境委員会として視察を行いました。

< 視察都市 及び 視察テーマ >

新潟市	環境モデル都市アクションプランについて 総合的空き家対策について
高崎市	中心市街地活性化基本計画について 空き家緊急総合対策について

空き家対策については、平成27年5月に「空家等対策の推進に関する特別措置法」が完全施行されたこともあり、各自治体とも工夫を凝らしております。

新潟市では、

- 地域提案型空き家活用事業
- 空き家活用リフォーム推進事業

により、**地域活動や福祉活動に空き家を活用**していく取組を行っております。

高崎市では、**空き家の管理・解体・活用の3段階で7つの助成制度**を設け、空き家対策を推進しています。



杉並区では408件が空き家と推計されており(平成25年11月の『杉並区空き家実態調査報告書』)、対策として、平成27年10月に「杉並区空家等対策協議会条例」を議会で可決、11月に第1回協議会が開催されました。
今後、「**(仮称)杉並区空家等対策計画**」が検討されるなかで、杉並区にどのような施策が必要か、私自身しっかりと調査・研究していきたいと思っております(私自身の最近の取組としては、11月に、金融・不動産の専門家から空き家対策について個別にお話を伺いました)。



新潟市の議場にて(中央が岩田)



高崎市での視察の様子

次回の定例区議会(平成28年第1回定例会)は、2月10日(水)開会予定です。

区政に関する 意見交換会 開催 (入場無料)

意見交換会の内容

□ 平成28年度 杉並区予算(案) について

平成28年第1回定例区議会(2月～3月)は、平成28年度杉並区予算(案)の審議が中心になります。
予算委員会の前に、平成28年度杉並区予算(案)についてご説明し、皆様のご意見をお伺いしたいと思っております。
多くの皆様のご参加をお待ちしております。

ぜひご参加
ください。



区政や岩田いくまに対する質問・ご意見・ご要望をおきかせください。

FAX: 03-3247-8660 もしくは E-Mail: ikuma@gakushikai.jp



杉並区議会議員(無所属) 岩田いくま 区政報告

第49号(平成28年新年号)

発行: 岩田いくま 〒168-0082 杉並区久我山5-24-30-103
TEL/FAX: 03-3247-8660 E-Mail: ikuma@gakushikai.jp
HP: <http://ikuma-iwata.net> (←毎日更新しています!)

岩田いくま(生真)略歴: 昭和46年(1971年)生。都立西高、東京大学卒。
外資系コンサルティング会社勤務を経て、平成15年5月より杉並区議会議員。
平成27年5月より4期目。
趣味: バレーボール(大学時代は母校で部活動のコーチを行う)、読書。
家族: 妻、長男(12歳)、長女(10歳)、次男(8歳)。

「学校施設の有効活用」等について、議会で提言

杉並区には、65の区立学校(小学校41、中学校23、養護学校1)があり、その延床面積は、区立施設全体の約半分を占めます。

地域の拠点として、学校施設のさらなる有効活用を図ること等について、11月18日(水)に本会議場で一般質問を行いましたので、その一部を抜粋します。

* 一般質問の様子は、杉並区議会公式ホームページの本会議録画中継(下記)でご覧いただけます。
<http://www.gikai.city.suginami.tokyo.jp/vod/vodtop.htm>

給食の有効活用

(岩田いくまの質問)

地域の高齢者が学校で給食を食べる「ふれあい給食」等、新たなつながりを生む地域交流の一環として、学校給食の有効活用を図るべき。

(区の答弁)

就学前の幼児や地域の方々等との交流給食は、有意義な活動である。各学校の実情に応じて取組を充実させたい。

(岩田いくまの見解)

調布市では、高齢者福祉サービスの一環として、既に実施しております。杉並区でも、近隣の未就学児を対象とした交流給食や保護者を対象とした給食試食会等は行われておりますが、**「世代間交流」という視点もしっかりと持つべき**と考えます。



特別教室の有効活用

(岩田いくまの質問)

生涯学習の場としての利用等、新たなつながりを生む「地域の居場所」として、**平日夜間や休日における家庭科室等特別教室の有効活用**を図るべき。

(区の答弁)

学校について、地域に開かれた公共空間としての機能を一層拡充する観点から、活用の可能性を検討していきたい。

(岩田いくまの見解)

学校には、音楽室・家庭科室・視聴覚室・コンピュータ室・図書室等さまざまな特別教室があります。地域の活動拠点としてこうした**施設や特別教室内の備品の稼働率を高め**、有効活用を図っていくべきと考えます。また、子供の貧困対策として国は、学習支援や食事を提供する地域の居場所を整備していく方針を示していますが、その拠点として家庭科室や図書室等の活用も図っていくべきと考えます。



校庭等の有効活用

(岩田いくまの質問)

今年度から、児童の放課後等居場所事業を4つの小学校でモデル実施している。将来的に目指す姿はどのようなものか。

(区の方針)

学校という広いフィールドで、地域の全ての子供の安全・安心な放課後の居場所を提供し、学童クラブの児童とそれ以外の児童がともに集い遊べる豊かな環境づくりをしていきたい。

(岩田いくまの見解)

現在も、児童の放課後等の居場所として、校庭開放や放課後子ども教室が行われておりますが、曜日が限定される等の制約があります。

区内に大きな公園に限られる中、親の働き方に関わらず、**全ての児童が放課後を充実して過ごせるよう、校庭や図書室等を毎日利用できるようにすべき**と考えます。



寄附の有効活用

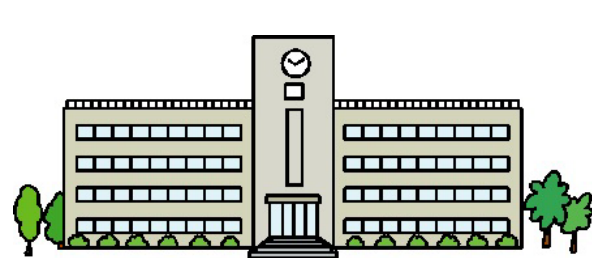
(岩田いくまの質問)

熊本県では「夢教育応援分」という寄附の仕組みをつくり、寄附の半額を、寄附者の指定する学校へ配分するようにしている(自治体への寄附(いわゆる「ふるさと納税」)として、一定額まで税額控除される)。

杉並区においても、**学校を指定した寄附制度を創設してはどうか。**

(区の方針)

区としてふるさと納税の研究に着手したところであり、議員ご指摘の事例等も含め、他自治体の状況について幅広く情報収集に努めたい。



(岩田いくまの見解)

地域の学校や子供・孫が通う**学校をより良くしたいと願う保護者等の想いを受け止める手段は、より多様であるべき**です。なお、杉並区には既に、応援したいNPOやその活動分野を希望できる「NPO支援基金」という寄附の仕組みがあります。

「寄附額により学校間格差が生じる」との批判はつきものですが、**税の使途を区民(住民)一人ひとりがしっかりと考えることにもつながり**、杉並区としても導入を検討すべきと考えます。

(注)自治体への寄附(いわゆる「ふるさと納税」)は、**自身が住む自治体にも行うことができます。**

その他、下記についても質問を行いました。

図書館行政	子ども読書活動推進計画の進捗状況及び課題
	蔵書管理へのICT活用(ICタグや二次元カラーコード)
	学校図書館相互貸借システムの進捗状況
教員の負担軽減	副校長二人制の現状及び今後
	学校給食費の公会計化(各学校の管理から教育委員会事務局の管理へ)
小中一貫教育	小小連携 (P. 3「研究授業見学」参照)
	学校運営協議会(*1)同士の連携

(*1)地域運営学校(コミュニティ・スクール)において、学校運営に関する基本的な方針の承認等を行う組織。

スポーツde障がい者交流会

11月3日(火・祝)、目黒区立中央体育館にて「**スポーツde障がい者交流会2015**」が行われました。

<主催>

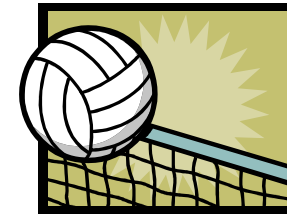
目黒区

<目的>

障害者スポーツの振興

<プログラム実施担当>

スペシャルオリンピックス(*2)日本・東京(略称: SONT)



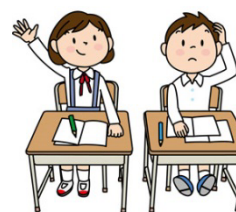
私は、**SONTの一員(バレーボール・プログラムの主任コーチ)として参加**しました。

当日は、ボランティアとして目黒区バレーボール連盟の方々や目黒高校の生徒達が参加してくれました。オリンピック・パラリンピックの東京開催に向け、障害者スポーツに向けられる視線も変わってきています。**SONTに10年間携わっている経験**を、区内外問わずに活かしていきたいと思っております。
(*2)知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織

研究授業見学

11月6日(金)、宮前中学校・久我山小学校・荻窪小学校(*3)にて「**9年間の学びの連続に関わる研究**」の研究発表会が行われました。

私は、4時間目に小学校の授業を、5時間目に中学校の授業を見学した後、研究発表に参加しました。



小中一貫教育といった場合、「小学校と中学校の学びの連続性」が注目されますが、あわせて「**小小連携(小学校同士の連携)**」の深化も研究成果として示されており、私自身も新たな気づきを得ました。これからも**学校現場を自身の目で見て、あるべき制度について考えていきたい**と思います。

(*3)杉並区の小中一貫教育は、中学校1校と小学校2校を基本的なグループとしています。

中学生海外留学成果報告会

11月28日(土)、久我山会館にて「**杉並区中学生海外留学成果報告会**」が行われました。

これは、「**杉並区次世代育成基金**」活用事業のひとつであり、今年で3年目となります。参加する生徒は、杉並区の交流都市であるオーストラリア連邦ウィロビー市に13日間留学(8月)。報告会では、班毎の研究発表や全員での詩の朗読等が行われました。



期間:平成27年8月18日(火)~8月30日(日)

杉並区教育委員会



事前学習会5回・事後学習会3回を重ねているだけあり、研究発表は私も興味深く聞きました。テーマを選ぶ視点や発表内容は、素晴らしかったと思います。

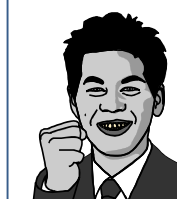
今後も**こうした機会に足を運び、教育の意義について考えるとともに、区が実施する事業の適否を資料だけに頼ることなくしっかり判断**していきたいと思います。

給食展示会

12月4日(金)、阿佐谷地域区民センターにて開催された「**杉並区学校給食展示会**」に足を運びました。

学校給食の現物が展示されている他、「学校給食のあゆみ」や「和食」、「アレルギー対応」コーナー等、様々な研究報告も示されていました。

また、済美養護学校で使用されている補助食器(首を反らさなくても飲めるように工夫された「傾斜コップ」等)も、実物を見ることができました。



こうした展示会に足を運ぶと、**給食に様々な工夫がなされていること**を実感します。

P. 1でとりあげたように、**学校給食(及び、そのノウハウ)をより有効に利活用**できるよう、これからも考えていきたいと思います。